

「歩み」 坂本 匡之  
キャンバス、アブゾルバン、テンペラ油彩混合技法  
103×73cm 2023年



「Landscape of Atmosphere」 宇野 和幸 和紙にシンナープリント、アクリル、墨、他 108×95cm 2023年



「仲良し」 出射 茂 紙に水彩、インク、アクリル、銀 116.7×91cm 2023年

## 線が触覚を触発する

— 線をめぐる三つの質感 —

出射 茂・宇野 和幸・坂本 匡之

IDEI Shigeru / UNO Kazuyuki / SAKAMOTO Tadayuki

2023年 12月1日(金) ~ 12月13日(水)

11:00~18:00 (最終日 16:00まで)

※ 月曜・木曜 休廊

ギャラリートーク&オープニングパーティ

宮田徹也氏(日本美術思想史研究)と出品作家によるトーク

12月2日(土) 16:00~

### 線が触覚を触発する

視覚空間と触覚空間(あるいは触覚的意味)は全く別で異質のものであり、その間にはいかなる空間的關係も存在しない、とする論がある。しかし、視覚空間(見る見ないにかかわらず視覚的に見えるものすべて)の中で身体的感覚を定位することができるのであれば、その感覚的体を起点に双方の空間は接合され、それらはひとつの知覚的风景として私たちとともに存在することになるであろう。実際に私たちの視覚と触覚は、身体的感覚経験によって連動して在ることの実感を得ている。

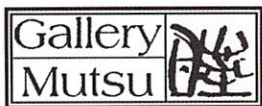
目の前の1本の線は何かの痕跡であり、運動の軌跡であり、境界であり、形態の片鱗でもあり、またそうあろうとしているものとして立ち現れる。線は機能としてのパーツであるときにはその重なりと分断によって位置を示唆するものとなり、構成要素として調和と構築、その歪みを作り出し、タッチとしてテクスチャーや材質感、情感を伝えることにも寄与するだろう。また遠近法に代表されるような視線の誘導効果を示すという流れや方向性を生み出す機能も持っている。

線はそこに定着すると、いや未定着で浮遊し続けている時でさえも、ひとつの境界を生み出すとともに形態への示唆を含む運動性を発揮する。それは描かれた線だけではない。ひっかけ傷としての線も、輪郭としての線も、エッジとしての線も、折りたたまれた痕跡も、断面も、皺も。すべての「線」は、物体や空間の形態や構造を定義することに加えて、それ自体が触覚の触発作用をもった「質」として立ち現れている。身体的感覚が視覚空間と触覚空間を接合していくように、線も視覚と触覚を緊密に結びつけていく。

すべての、あらゆる線たちが私たちの触覚を触発し、そこに質としての存在が知覚的に立ち現れている。ギャラリー睦に集う3人の作家がそれぞれの触覚を触発する線をめぐってどのような質感を出現させるのだろうか。

ギャラリー睦での「線が触覚を触発する」展の連動企画として、アトリエmoon/ギャラリーわらねにて、同じく出射・宇野・坂本の3作家の旧作、小品を中心とした「色が感覚を拡張する」展および関連イベントを同時開催いたします。色が感覚を拡張する—ここでいう色・色彩とは、原色やそれに近い明解な色彩だけを差すのではなく、主に明暗のニュアンスに含まれるような、わずかな色味のことを意味しています。その微かなありかた、立ち現れかたが(微かであればあるほど)、私たちの感覚を拡張してくれるともいえるのではないのでしょうか。

ギャラリー睦 / GALLERY MUTSU  
〒260-0045 千葉市中央区弁天3-8-11  
TEL / FAX : 043-287-2355  
URL : gallery-mutsu.com  
E-mail : info@gallery-mutsu.com





関連企画 (同時開催)

色が感覚を拡張する

出射 茂・宇野 和幸・坂本 匡之

11月4日(土)、11日(土)、18日(土)、25日(土)、12月2日(土)、9日(土)

2023年11月4日(土)～12月9日(土)

※土曜のみオープン 11:00～16:00

アトリエMoon／ギャラリーわらね

〒270-1615 印西市師戸78

TEL:045-699-1227

E-mail: atelierrmoon78@gmail.com

※わらねへの交通についてはこちらのアドレスにお問い合わせください。



わらね MAP

線が触覚を触発する

— 線をめぐる三つの質感 —

出射 茂・宇野 和幸・坂本 匡之

IDEI Shigeru / UNO Kazuyuki / SAKAMOTO Tadayuki

2023年 12月1日(金) ～ 12月13日(水)

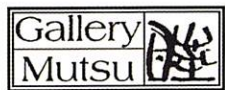
11:00～18:00 (最終日 16:00まで)

※ 月曜・木曜 休廊

ギャラリートーク&オープニングパーティ

宮田徹也氏 (日本美術思想史研究) と出品作家によるトーク

12月2日(土) 16:00～



ギャラリー睦 / GALLERY MUTSU

〒260-0045 千葉市中央区弁天3-8-11

TEL / FAX : 043-287-2355

URL : gallery-mutsu.com

E-mail : info@gallery-mutsu.com



JR 千葉駅・公園口より徒歩約 10分  
千葉市中央図書館裏 (館内通抜け可)



「重なる形」

キャンバスにアクリル、油彩  
72.7×60.6cm 2019年

出射 茂 / IDEI Shigeru

1958年 広島県生まれ

1985年 東京藝術大学大学院 美術研究科修士課程 壁画研究分野 修了

近年の主な展覧会

2023年 個展 (NICHE GALLERY/東京【2003～2023隔年】)

四つの芽 (ギャラリーわらね/千葉)

HOLONIC展 (京王プラザホテル/東京【2020～2023】)

HOLONIC展 (ギャラリーユニコン/川越)【2012～2019】

2022年 個展 (京王プラザホテル/東京【2001～2022隔年】)

2019年 環境省・川西町クールチョイス動画制作

2018年 「春」 (Allme Artspace/ソウル)

2017年 LA ART SHOW 2017

個展 (Gallery 30 SOUTH/ロサンゼルス)

「玉手箱のある絵画展—境界を越えて」 (ギャラリーMeiPAM/小豆島)

壁画制作 (山形県川西町交流館アイノバル)

【パブリック コレクション】原美術館、上野の森美術館、三浦美術館



「Landscape of Flowing zone」

和紙にシンナープリント、アクリル、墨、他  
175×380cm 2023年

宇野 和幸 / UNO Kazuyuki

1960年 千葉生まれ

東京藝術大学大学院 美術研究科博士後期課程 単位取得退学

近年の主な展覧会

2023年 「K's Galleryに集う作家たち」 スペース・ゼロ (東京)

「カチュウ」 アートスペース嵯峨 (京都)

「第50回現代アーティストセンター展-ビジュツ、行動せよ!-」 東京都美術館 (東京)

「個展」 巷房 (東京)

2022年 「U know they mean2022-半透膜の反射と浸透-」 Steps Gallery (東京)

「個展」 ギャラリー睦 (千葉)

「日韓藝術通信7 GIFT」 Oharano Studio Gallery (京都)

「未景2022 ～ものがたるものがたり～」 御寺泉涌寺 (京都)、他

2021年 「再び、対話する風土」 Schema美術館 (韓国)

「表層の冒険～抽象のパロキスム～」 ギャラリー鴻 (東京)

「個展」 巷房 (東京)

「東京展 eyes」 東京都美術館 (東京)

「未景2021 ～あかるい水になるように～」 御寺泉涌寺 (京都)、他



「植える」

キャンバス、アクリル、ペン、テンペラ油彩混合技法  
73×51.5cm 2023年

坂本 匡之 / SAKAMOTO Tadayuki

1957年 福岡県に生まれる

1986年 東京藝術大学大学院 美術研究科修士課程 壁画研究分野 修了

近年の主な展覧会

2023年 HOLONIC 展 個と全体の調和を図る 京王プラザホテルロビー-gallery (東京)

岐阜アートギャザリング展 十六銀行本店 (岐阜)

加藤栄吾と仲間たち展 わたなべ画廊 (埼玉)

個展「象=sho」d-lab gallery/design・lab—級建築士事務所 (埼玉)

2022年 Gallery 枝香庵 ウィンターフェスティバル (東京)

アートクリスマス わたなべ画廊 (埼玉)

個展「モノガタル」The Artcomplex Center of Tokyo (東京)

個展「記憶の底へ」 Gallery 枝香庵 (東京)

LAG Artists Selection 2022 池袋回遊派美術展 東京芸術劇場gallery1 (東京)

The Artcomplex Center of Tokyo小作品展 (東京)

HOLONIC 展 個と全体の調和を図る 京王プラザホテルロビー-gallery (東京)

Gallery 枝香庵 ウィンターフェスティバル (東京)